

実践の学問としての土木計画学

京都大学経営管理大学院・工学研究科

小林 潔司

実践 (pratique)

Pierre Bourdieu

ディスタクシオン (La distinction, critique sociale du judgement)

実践的感覚 (Le sense pratique)

ホモ・アカデミクス (Homo academicus)

ホモ・アカデミクス

- 大学界を研究対象とするためには、研究者自身がこの<界>に所属していることを念頭に置かなければならない。大学界の実践の分析結果の解釈に、日常的な認識と解釈が介入し、調査研究の客観性が損なわれる。この難点を克服するためには、科学的・客観的<構築化>が行われ、客観化の客観化が必要となる。

- 1) 普遍性の原理 個別性の原理
- 2) 論理性の原理 シンボリズムの原理
- 3) 客観性の原理 能動性の原理

2重の被支配性

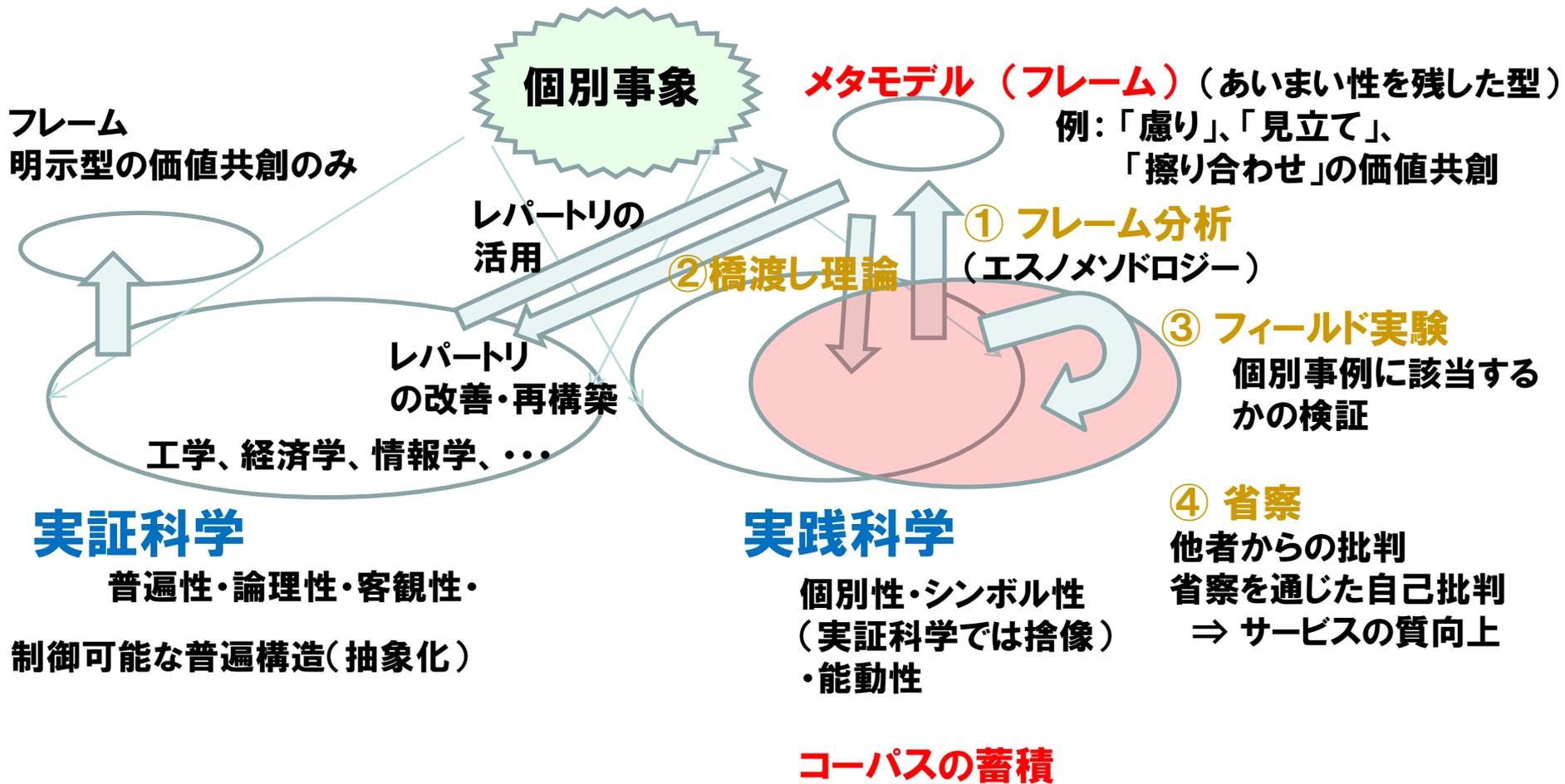
- 実践者自身による実践の評価
- 制度的枠組みに対する従属性

- 個々の実践を実践全体の総体から切り離すことは出来ない。
- 実践の空間は内に閉ざされた世界ではない

実践と弁証法

全体の構造の構築に必要な包括的・概観的視覚と、至近距離からの特殊研究的視覚とを両立

実証科学と実践科学との橋渡し



- 客観化過程の道具立て(レパートリー)
厳密性

「客観化の客観化」を実施するための道具立て
(実践的研究モデル)
適切性

- 1) 結果的妥当性基準

どの程度問題の解決につながったのか

- 2) プロセス的妥当性基準

- レポートリーと適用方法が妥当か？

- 3) 民主的妥当性

関係者の協働を実現できたのか？,

- 4) 触媒的妥当性基準

関係者をどの程度動機づけたのか？,

- 5) 対話的妥当性基準

どの程度省察的な対話がなされたのか